

船員の仕事とそのやりがいを中学生に紹介

～ 荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力 ～

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース」を設置し、船員教育機関等と連携しつつ優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を行っている。今般、その一環として、荒川区立第三中学校(東京都)の「校内ハローワーク」に講師として川崎汽船の重田育輝船長を派遣した。

(写真は講演風景)



荒川第三中学校（荒川三中）の校内ハローワークは、進路・生き方学習の位置付けで多様な職業の方々（例年 30 職種程度）を講師に招き、生徒に「自分の生き方」について考えるきっかけを与えることを狙いとした行事で、平成 13 年度から例年開催されている。



電子黒板を使って説明する重田船長

今年度の校内ハローワークは 10 月 5 日(土)に開催され、船員職の他、役者、新聞記者、アナウンサー、警察官、看護士、パティシエ、キャビンアテンダント、漫画家、銀行員等、広い範囲に亘る 32 職種の講師が招かれ、全校生約 350 名と近隣の小学生がそれぞれの講座に分かれて参加した。なお、当協会に講師招請があったのは 2011 年、2012 年に引き続き 3 回目である。

重田船長の講座には 40 名程が参加し、商船の種類や船員の仕事、船内生活に関する紹介、船員という職業のやりがいについての説明に熱心に耳を傾けていた。

終了後、重田船長の講座に参加した生徒からは、「船についていろいろ知ることができた」、「船から多くの資源を運んでいることが分かった」、「海の上の仕事もいいなと思った」等の感想が寄せられ、日常的には馴染みの薄い船員という職業への関心が高まったことがうかがわれた。



各講座終了後には体育館で生徒代表から講師にお礼の挨拶があった